

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（例）

【学 年】 小学校第 6 学年

【単元名】 楮の皮からせんいを取り出そう（11 時間扱い）

【育成を目指す資質・能力】

〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕	〔学びに向かう力, 人間性等〕
楮の皮からせんいを取り出す活動を通して, その大切さに気付き, 自分の生活との関わりについて理解する。	実体験の中で出会った事実に対する気付きや疑問に基づいて自分の課題を見付け, どのように課題を解決していくのか自分の考えをもち, 友と伝え合うことができる。	探究活動における友との関わりの中で, 共に考え合うことのよさに気付き, 協働的に探究活動に取り組むことができる。

【主な学習活動と留意点】

前単元からのつながり：楮を煮熟するためのアルカリ液の材料として, 様々な植物を燃やして灰を集め, PH を調べた。

働かせる見方・考え方：主に理科の見方・考え方を働かせながら, 物事を多面的に捉えたり多角的に考えたりして, 煮熟の活動を俯瞰的に捉え, 自己の関わり方を問い続けること。

過程	学習活動（時間）	留意点
課題の設定 ↓ 情報の収集 ↓ 整理分析 ↓ まとめ表現	<p>問い：自分たちのアルカリ液でも, 楮の繊維を取り出せるのだろうか。</p> <p>1 煮熟の計画を立てよう(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 煮熟の手順を確認する。 どの植物の灰汁を使うのか考える。 	<p>自ら課題を設定し, 追究の見直しをもつ</p> <p>☞例えば, 自然に優しい植物の灰汁を使用したいという子どもの願いを大切にすることで, 計画を立てる段階から意欲的に取り組めるようになります。</p>
	<p>2 植物の灰で煮熟してみよう(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 煮ている楮の様子を見る。 楮を取り出して, 柔らかさを確かめる。 五感を働かせて, 楮の変化を観察する。 	<p>煮熟した楮の変化から, 情報を収集する</p> <p>☞何度も試行錯誤できる場面を大切に, 直に楮に触れ香りや色, 感触などから皮の変容を捉える場を大切にしましょう。</p>
	<p>3 煮熟について調べなおそう(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちで煮た楮と和紙職人の方の楮を比較する。 和紙職人の煮熟のコツを調査する。 	<p>活動から得た情報を, 整理・分析する</p> <p>☞情報の整理・分析を意識的に行うために, 比較・分類・関連付け等考えるための技法を意識しましょう。</p> <p>☞整理・分析した情報をもとに, さらに情報収集のために, 再度対象に働きかけるといったように, 探究のそれぞれの過程が何度も繰り返されることもあります。</p>
	<p>4 ヨモギの灰で煮熟してみよう(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 和紙職人のように, ヨモギの灰を使って煮てみよう。 	
	<p>5 活動を振り返ろう(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の取組や工夫を共有する。 	<p>まとめ・表現をし, 自己の学びを自覚する</p> <p>☞取り出した楮の繊維を目の前に用意し, 自己の追究のよさを自覚できる場を設定しましょう。</p>

次単元へのつながり：「取り出した繊維で和紙を作ろう」

・自分たちの手で取り出した楮の繊維を用いて紙すきを行い, できた和紙からこれまでの活動への取り組みを振り返り, さらなる課題を見つけていく。